

はまなす句会（四月二十日）（第一百回）

水底に影を曳きゆく花筏

圭二

菊桜の花をも待たず君逝きぬ

菊枝

寒暖の日々に変わりて山萌ゆる

由美子

花嫁のそぞろ歩きに花が舞う

久子

青空にあます事なく八重桜

克史

黄昏て辛夷の花が道しるべ

玲子

小川にもゆるりゆるりと春の水

則子